

テーマ: 敬虔な回復力  
シリーズ: ハラウェイ シーズンズ  
ポー・スターン・ブレイディー  
2024年・11月・24日

廊下の季節。再定義。こことあそこの間。

新約聖書で私が見る特別な廊下は、十字架刑の金曜日と復活の日曜日の間の廊下です。それは静かな土曜日の廊下です。すべてが暗く感じられ、すべての希望が失われたように感じられ、鐘が鳴らず、鳥が歌わないとき。私たちの心が静まり、信仰が薄れていくとき。土曜日。

最近、私のカウンセラーが、私が土曜日をどれだけ嫌っているかを指摘しています。私は本当に良い部分に移りたいです。そして彼女は私に言いました。「ねえ、ポ、イエスは3日間ではなく3時間で死んで埋葬され、復活することもできたはずよ。イエスは彼らをそんなに長く待たせる必要はなかった。でもそうしました。イエスは彼らにとって何か得になることを知っていました。私はイエスが私たちのためだけに働く信じています。イエスの働き方が苦痛を与えるときでさえ、それは私たちのためです。だから、イエスにとっても忠実に従っていた人々のために1日待つ格闘するというイエスの計画は、彼らのため、そして私たちのために立てられたものだと私は知っています。

彼らが待っている間に経験したこと:

1. 絶望(悲しみ、怒り、悲嘆、失望 - 魂の暗い夜)
2. 疑い - イエスが誰で、何を約束したのか。彼らが希望を託した聖書に。おそらくお互いに？彼らは仲間の一人、ユダを失ったばかりだ。誰を信用できるのか？何を信じればいいのか？廊下の季節は、信仰の領域でほぼ常に私たちに挑戦を課します。何が真実なのか？(「神は善良である」)私たちの重荷を支えるのに十分な真実とは何か？(「神は私にとって善良である」)
3. 格闘: 悲しみを乗り越えるプロセス。このような瞬間に絶望や疑いが生じるのは、ほぼ避けられないと私は主張します。誰もがそれを経験します。しかし、誰もが格闘という作業を選ぶわけではありません。神と格闘するのは、難しい提案です。間違っているように感じます。負けても負けても構わない提案のように感じます。しかし、神と格闘することは聖書的で神聖なことです。それには、私たちが許せば美しいものへと導いてくれる敬虔な回復力が必要です。そして、それは美しいものへと導くだけでなく、私たちの中に美しいものを構築します。

パウロはピリピ人への手紙2章で教会にとっても興味深いことを伝えています。彼はイエスの美しさと謙遜さについて語っています。イエスは身を低くして私たちを救うために来られました。イエスは銃を撃ち鳴らし、雷鳴を轟かせて私たちに隷属を要求することもできたでしょうが、その代わりに召使いの姿をとって十字架に自らを捧げました。こう書かれています:

“しかし、それゆえに、神はキリストを高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。それは、その御名のもとに、すべてのものが天でも地でもひざまずき、すべての口が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。”

ピリピ人への手紙 2:9-11 JCB

パウロが金曜日から日曜日までいかに早く私たちを導いているか分かりますか？「イエスは十字架の死に従順になりました...それゆえ神は彼を最も高い所に上げました。」弟子たちにとってはそれほど早くは起こりませんでした。彼らはイエスが最も高い所に上げられた方であることを確認するために土曜日の廊下を通り抜けなければなりませんでした。しかしその後パウロはこう言います：

“愛する皆さん。私がそちらにいた時、あなたがたはいつも、私の教えに従順に従ってくれました。離れている今はなおさら、しっかりしてください。深い尊敬の思いをこめて神に従い、神に喜ばれないことから手を引きなさい。神は人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ、神が望まれる行いができるように助けてくださるのです。”

ピリピ人への手紙 2:12-13 JCB

イエスは今や高く上げられています、パウロは私たちにはまだ「努力」しなければならないことがあると言っています。ギリシャ語で「努力」とは労働、つまり仕事という意味です。努力しなさい。格闘しなさい。神を知りなさい。神に従いなさい。神を信じなさい。そしてパウロが私たちに言っているのは、神を知り、あなたの救いのために努力しなさいということです。なぜなら神はあなたの中で働いておられるからです。神は沈黙の季節に働いておられます。神は悲しみの季節に働いておられます。神は土曜日に働いて、私たちの中に大切なものを築き上げます。

敬虔な回復力：

1. **謙虚でいよう。** 謙虚さは、辛辣さ、皮肉、批判、噂話に対する解毒剤です。謙虚でいてください。見つけるのが難しいと感じるときでも、イエスの心に近づいてください。感じるのが難しく感じるときでも。今週、友人とこのことについて話しました。頭ではイエスが善良であるとわかっているのに、心ではなかなか感じられない。プライドはこう言います。「私にはもっとよくわかっている。心の中で神の働きを量り、欠けていることに気づきました」。謙虚さはこう言います。「何が起きているのか理解できないが、イエスだけが満たすことができる場所に足を踏み入れることは拒否する」。それが謙虚さであり、それが畏敬の念です。

ラザロが死ぬと、マリアは悲しみに打ちひしがれました。そして、イエスに会いに行き、すぐにひざまずきました。謙虚な姿勢で行動を起こしました。謙虚さがあれば、私たちはイエスの声を聞くことができます。謙虚さは、私たちの心を柔らかくし、耳を広く保ちます。謙虚さは、私たちの回復力に敬意をもたらします。

ヨブ：苦闘の日々、私は変化が訪れるまで待ちます。

デイビッド： 生きている地で神の善良さを見ると信じていなかったら、私は絶望していたでしょう。  
敬虔に待ちましょう。謙虚に待ちましょう。

**2. 正直でいよう。** 今はごまかす時ではありません。神に正直でいてください。  
私たちの英雄、神の心にかなう人、ダビデ王の言うことに耳を傾けてください：

“神よ、私の神よ。どうして、私をお見捨てになったのですか。どうして、助けるどころか、うめきさえ聞いてくださらないのですか。私は昼となく夜となく泣いては、助けを叫び求めていますのに、あなたは答えてくださいません。”

詩篇 22:1-2 JCB

“主よ、いつまで私をお忘れなのですか。まさか永久にではないでしょう。こんなに困っているというのに、いつまで顔をそむけておられるのですか。いつまで日々つきまとう苦悩に 耐えなければならないのでしょうか。いつまで敵が私に勝ち続けるのでしょうか。”

詩篇 13:1-2 JCB

そして、とてもドラマチックなので、これが大好きなんです...

私は弱り果てています。私を癒してください。私は崩れ落ちています。私の体と魂の痛みをいつまで取り去ってくれるのでしょうか。私が死んだあなたに何の役に立つのでしょうか。墓場は歌を歌わないのです。死の闇の中で、誰があなたを思い出すのでしょうか。私が墓に埋葬されたら、どうしてあなたを讃えることができるのでしょうか。私は泣き疲れています。うめき声で眠れない夜を耐え、枕を涙で濡らしています。私の信仰の目はもはや焦点が合いません。悲しみが私の心を満たしているからです。詩篇 6:2,3,5-7

神に対する私たちの気持ちについて、本当に正直であるべきという聖書の慣例がいろいろあります。神に対する私たちの気持ちについてさえもです。私たちは正直で謙虚であることができます。

**3. 飢え続ける** 私が人生で犯した最悪の過ちは、神への渴望を何か他のもので満たしてしまったことです。神に失望したとき、神への渴望を他の誰かや何かに向ける誘惑に駆られます。神を求め続けてください。神と神の言葉を追い求め続けてください。必要なら、自分が真実だと知っていることを何度も何度も自分に思い出させてください。

詩篇22章にあるダビデの嘆願を読みました。「神よ、わが神よ！なぜ今私をお見捨てになるのですか？私は泣き止みません。わが神よ、あなたはどこにいらっしゃるのですか？...金曜日。ダビデは死と絶望の苦しみの中で生きています。そして彼の次の言葉はこれです：

“しかし、あなたはきよいお方です。私たちの先祖の賛美が、御座を取り囲んでいました。あなたに信頼していた彼らを、あなたは助け出してくださいました。彼らの叫びを聞いて、救い出してくださいました。助けを求める人々を、ただの一度も失望に終わらせなかったのです。”

#### 詩篇 22:3-5 JCB

デイビッドは絶望しています。そして、彼がこのすべてから逃げ出したいと望んでいるのがほとんど感じられます。しかし、しかしがあります。むしろ、「しかし」があります。あなたは私を見捨てたようですが、私はあなたが聖なる方であることを知っています。あなたの経歴と経歴を知っています。たとえ今自分の人生でそれを見ることができなくても、あなたがあなたの人々のために良いことをしているのがわかります。これは神の忠実さを練習することと呼ばれ、謙虚で正直で貪欲な人々の実践です。(これを行うには、時には他の人の助けが必要です...)

#### 4. 保持されたまま

私は申命記のこの一節が大好きです。ベニヤミン族について語られていますが、私たちにも当てはまると思います：

“ベニヤミン族への祝福のことば。「主に愛され、みそばで安らかに住む者よ。主は優しく見守り、あなたがたにどんな害も受けさせません。」”

#### 申命記 33:12 JCB

息子のジョサイアが4歳くらいの頃、私たちはディズニーランドに行きました。そして、歩き続け、列に並び、乗り物に乗り、小さな世界に耐えました。そしてある時、ジョーは疲れ果てて諦め、お父さんに抱っこしてもらえると尋ねました...そしてお父さんが何をされたと思いますか？抱っこしたのです。彼は息子がもっと強くないとか、もっと回復力がないとかと叱ったりはしませんでした。彼の状態をからかうこともしませんでした。彼はただ息子を抱っこしたのです。なぜなら、彼は息子を愛し、地球上で最も幸せな場所であっても4歳でいるのは時々大変だと知っている良い父親だからです。

イエスは、人間であることの難しさを知っています。そして、私たちが救いのために努力していることも知っています。私たちがこの地球上で土曜日の状態、つまり今でありまだではない状態に生きていることも知っています。私たちは部分的にイエスを見ることができますが、同時に墮落した霧のかかった世界に生きている。イエスは、あなたが時には信仰、崇拝、寛大さ、親切のすべてを得るために格闘しなければならないことをご存知です。人生にはイライラするものから苦痛なものまでさまざまなパンチが繰り出され、その打撃で体が震えるときに私たちの信仰が試されることをご存知です。イエスはご存知です。イエスもそれを経験しました。そして、イエスはその中で、そしてそれを通して私たちが愛しています。ですから、粘り強さを保つための私の最後のヒントはこれです。

5. 自信を持ち続ける。疑問を持ちながらも自信を持つことができます。緊張した戦いの中でも、その両方を保つことができます。

“あなたがたは、初めてキリストを知った時の祝福された日々を、いつまでも忘れないようにしなさい。また、死ぬほどの苦しみに会いながらも、主と共に戦い抜いてきたことを、いつも心にとめていなさい。時には、あなたがた自身があざけられたり、打ちのめされたりし、また、同じ苦しみを味わっている人たちの友となったりしました。牢獄に捕らわれの身となった人たちと共に苦しみ、また全財産を奪われても、喜んでそれに耐え抜きました。それはあなたがたが、もっとすぐれた、永遠に残るものを持っていることを知っていたからです。このようなすばらしい祝福が待っているのですから、どんなことがあっても、主を信じ続けなさい。やがて主から受ける報いを思いなさい。神の約束されたものをいただきたいと願うなら、忍耐しなければなりません。”

へブル人への手紙 10:32-36 JCB

忍耐強い忍耐。敬虔な回復力。価値ある格闘。これらは、筋肉と優雅さ、強さと柔らかさ、希望と癒しを育むものです。土曜日は、イエス様とそこで会えるなら、金の価値があります。

応答: 苦戦したハレルヤ